



本紙のカラー版をホームページ「本郷ふじやま公園」にてご覧いただけます
次の世代に繋げたい食文化 梅干づくり

保存食として、あるいは毒消しなどの薬用として平安時代から珍重され、今では日本人の食卓に欠かすことのできない梅干づくりがふじやま公園で始まりました。

まだ、公園の木々が春に向け開花の準備をしている冬のさなかに、赤や白の花をつけ春の訪れを告げていた梅の木は、梅雨に入り黄色い実をたわわに実らせました。

梅の実採りは、霧雨が降り注ぎ足場がぬかるんだ悪条件の中で行われました。木を揺ると、下で待ち受けるスタッフには硬い梅の実と一緒に葉に付いた雨のしずくが容赦なく襲い掛かってきましたが、1時間半ほどです



すべての梅の実を何とか落とすことができました。

その日の午後、ヘタ等を丁寧に取り除かれ洗浄された梅は塩漬けにされ、土用干しの時期まで古民家の土間に置かれています。今年の土用の入りは7月20日です。皆さんがこの記事を目にするころに古民家前では天日干しが行われているかも知れません。



都市化や核家族

などで家庭環境が大きく変わる中で、梅干や味噌作りなど代々受け継がれてきた先人の知恵を次の世代に引き継いでいくための取り組みを、ふじやま公園ではこれからも進めていきます。



7月に入り、雲の切れ間から顔を覗かせた太陽の光が肌に痛く感じるようになった。今年の夏は節電意識が浸透したせいか、扇風機やステコが売れ、公園へと続く家々でもすだれや朝顔が妙に目に付くようになるなど、まさに昭和の夏復活という感がある。

雨上がりの湿気と暑さでむっとする草いきれのなかを農園へと歩いていくと、植えつけられたサトイモの葉にたまった水玉が太陽の光を反射していた。サトイモの露を集めて墨を擦ると習字が上達すると母親から言われて、畳の上に半紙を広げている少年の姿が、ふと脳裏によみがえってきた。まじめに習わなかったせいか字はさっぱりうまくならなかったが、そんな言い伝えは平成の今でも効果があるのだろうか。



親子で楽しんだ “わんこソーメン流し”

7月3日(日)は朝から好天に恵まれ、夏恒例のわんこソーメン流しが行われました。150 食用意した整理券は 30 分程で完売。スタッフは6月半ばから入念な打ち合わせ、竹の切りだしや仕掛けなどを準備。中庭では大きな七夕飾りが皆の願いを短冊に込めて風に舞いました。更によしず屋根の下では節を取り工夫された青竹の中をわんこソーメンが次々と流れ、セットの雰囲気させているのでしょうか?競ってお代りする子ども達、そしてソーメンが美味しい!付けだれが良い感じ!と大人の方々も納得。来園者の元気なエネルギーと笑顔を通してスタッフ一同元気を頂いた一日でした。



思い出作りに “ミニ笹飾りと竹細工”



同じ日、人気の竹細工コーナーにはたくさんの親子が並びました。スタッフの手を借りながら子ども達はウグイス笛や風車作りに一生懸命取り組みました。自分で作ったウグイス笛の音が出た時、また色とりどりの折り紙を貼った風車がきれいに回ってくれた瞬間、子ども達は「うれしい、出来た!」と達成感の笑顔を見せてくれました。ミニ笹飾りはお気に入りの色紙で可愛い七夕飾りとなり、こども達の願はきっと彦星・



織姫星が叶えてくれたことでしょう。会場の一角ではシイタケ、梅干し、竹炭などが販売されており、その売上金は横浜市の災害募金口座に入金されます。



内蔵の宝 煙草盆

最近は煙草を吸う人は随分と減っているようですが、現在のような紙巻き煙草やライターのない時代、喫煙は大変面倒なものでした。寛永年間(1624~44)に茶道具として南蛮から持ち込まれたといわれる煙草盆は、喫煙の便を図るため、炭火を入れた火入れ(写真の右部分) 吸いがらを捨てる灰吹き(灰落とし=写真の左部分)そしてキセルなど喫煙諸道具一式がコンパクトにまとめられた画期的なものでした。初めは大名茶人を中心とした人びとで使用されていました。大名好みには飾り立てた細工物が多いのに対して茶人好みは桐や桑等の木地で形も簡素なものが多かったといえます。

次第に庶民の間にも普及していきました。古民家の煙草盆は箱形、大きさ 17cm x 30cm 高さ 15cm で日常生活でかなり愛用されたものと思われます。

煙草盆は今でもお茶の席で茶室を飾り、くつろいだ雰囲気を出すための道具として出されたり、古道具としても人気があるそうです

上座敷の床框に盃形の埋め木が・・・



某月某日、ボランティアの1人が上座敷の床框(トコナフ)の中央部に盃の模様があることを見付けました。これは盃に形をした埋め木(ウキ)です。大きさ径6cm 高さ2cmで檜の框のほぼ中央にあります。かつては古材を再利用することは普通で、古材のほぞ穴、切欠き、腐食部を補修するのに埋め木をしました。また新材でも床柱や床框または板材の節穴、割れ目がある場合はこれらの穴と同じ大きさに削った木を穴に埋め込み、材料を整え一人前の材料としました。埋め木は装飾にもなり、職人の技を見せるところでもあり、古き日本の循環型社会を垣間見せています。

埋め木は建築材料だけでなく、家具類や版木にも利用されました。版木の場合は摩耗した部分を削り取り、そこに別の木を埋め込み、周囲の高さと合わせてカンナで削り、ノミで元の字を彫りだしました。

古民家のこの埋め木はなぜ盃なのか、誰の意図なのか等々想像力がかき立てられます。また古民家にはこの盃だけでなく、ほぞ穴などに埋め木をして古材の再利用している箇所が見られます。みなさん何ヶ所あるか探してみてください。



『いろいろ辺雑記』から (原文のまま)



- ・古民家は、心やすらぎます。都会のなかのオアシスです。時を忘れ、追憶にひたれるのではないのでしょうか。
- ・また、遊びにきました。暑い日は、すずしいここで遊ぶのがたのしいです。

ふじやま公園の植物

クチナシ アカネ科

常緑低木、葉は対生で表面につやがある。一重の花弁は筒状から6弁に分かれ花の色は初め白色だが徐々に黄色に変化していく。ジャスミンの様な強い香りは遠くからでも香る。10月～11月実を付け、実はオレンジ色で古くから黄色の着色料として食用に用いられ、また布の染料としても使われる。公園では長屋門の前に一重よりやや遅咲きの八重があたり一面に香り、しばし来園者の足を留めている。



平成23年8月ボランティア活動予定

部会・事項	日程	部会・事項	日程
事務局会議	5日(金)	古民家歴史部会 部会	14日(日)
農芸部会 部会	15日(月)	古文書解読勉強会	7日(日)28日(日)
作業	月曜日 木曜日	歴史探訪	休みます
里山部会 作業	8月の作業は休みます	囲炉裏守 囲炉裏焚き	当分の間休みます
工作棟部会 部会	31日(水)	クリーンアップ	2日(火)16日(火)
子ども工作準備	適時	ふじやまだより編集会議	6日(土)
ホームページ制作打合せ	28日(日)	印刷	13日(土)

楽しい教室のお知らせ

奮ってご参加ください。お待ちしております。

教室名	日 時	内 容	参加費	応募期限
作って遊ぼう～ 子ども工作の日	8月21日(日) 10時～12時 13時～15時	クルクルスネークを作る	無料 当日受付	10時～11時 13時～14時 先着各12名
押し絵 (全2回)	9月8日(木) 13時～16時 14日(水) 同上	「おしどり」 夫婦円満の象 徴です	1,500円	8月31日(水)
篆刻 (全3回)	9月11日(日) 13時～15時 10月9日(日) 同上 11月6日(日) 同上	誰でも出来る篆刻	1,000円	8月25日(木)
ビーズ工芸	9月13日(火) 13時30分～15時30分	開運プレスレット. あなた のラッキーストーンを使 って	2,000円	8月30日(火) 10名
押し花	9月15日(木) 13時～16時	秋の花をデザインして額 にする 18cm×10cm	2,000円	9月10日(土) 10名
第68回初心者 茶道体験教室	9月17日(土) 13時～16時	古民家で茶道を楽しんで みませんか。初心者大歓迎 平服でおいで下さい 男性の方もどうぞ	500円	8月31日(水) 10名
里山のそば打ち塾	9月24日(土) 13時～16時	初心者大歓迎 初めてで も美味しいそばが打てます	800円	9月10日(土) 6名

応募要領：往復はがきに、教室名、氏名（ふりがな）、郵便番号、住所、電話番号を書いて
応募期限までに本郷ふじやま公園へ

・・・お知らせ・・・

第2回お月見 能舞・能管コンサート

昨年好評でしたコンサートを今年も計画しています

日 時：10月22日 18時30分～19時30分

要 領：無料 定員100名 詳細は追ってお知らせします。



6月ふじやま公園来園者数 1,336 名 累計 6,440 名

梅もぎ余談 今年の梅の実には梅干しの他に2kgを一袋として10袋ほどを事務所窓
口で販売しました。売上金は震災義援金としました。

- ・開館時間： 9:00～17:00
- ・入館料： 無料
- ・休館日： 8月3日(水)
- ・クリーンアップ： 8月2日(火) 16日(火)10時～11時

ふじやま公園運営委員会

〒247-0009 栄区鍛冶ヶ谷1-20 TEL: 896-0590 FAX: 896-0593

「ふじやまだより」に対するご意見や感想を電話、FAXでお気軽にどうぞ